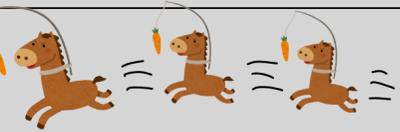
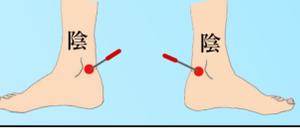


# 十二刺：十二経に應ずる刺法【主に毫鍼を用いる】

十二刺	用途	手法
偶刺 (ぐうし)	心痹のとき 	背部と胸部の前後から1鍼ずつ刺す※計2本【愈募配穴】
報刺 (ほうし)	痛む所が動いて定まらないとき(遊走性)	痛むところを手で追いかけて次々と繰り返して置鍼する 
恢刺 (かいし)	筋痹のとき 	筋に直刺、のちに鍼を左右前後に方向を変えたり動揺させて筋を緩める
斉刺 (せいし)	寒気や痺気が狭く深部にあるとき 	中心に1鍼、すぐ両側に1鍼ずつ並ぶように刺す※計3本
揚刺 (ようし)	寒気の範囲が広範囲のとき 	中心に1鍼、四隅から中心に向かい水平刺で寒気を浮かすように刺す※計5本
直鍼刺(ちよくしんし)	寒気の浅いとき 	皮膚をつまんで引っ張りこれを刺す
輸刺 (ゆし)	気が盛んで熱があるとき(深部熱)	まっすぐに深く刺し、まっすぐに抜いて熱を瀉す 
短刺 (たんし)	骨痹のとき 	鍼を揺すりながら深く刺し骨に至らせ、鍼で骨を上下にこする
浮刺 (ふし)	筋肉がひきつって冷えるとき 	その傍に斜めに刺して浮かす
陰刺 (いんし)	寒厥のとき(冷感足先→膝腰&下痢)	左右の【太溪】に同時に刺入する※計2本 
傍鍼刺(ぼうしんし)	湿痹のとき(経過が長く同じ部位の痺)	痛みの中心に1鍼、そのすぐ傍らに1鍼刺す※計2本 
贊刺 (さんし)	ようしゅ 癰腫のとき(できもの、はれもの)※出血	毫鍼や鋒鍼で何度も繰り返して浅く刺し出血させる 

ワンツースター グー!! 崩壊。『セイ!!!Yo!!!!!!』直進。湯熱短骨フー。IN!! 防湿!! 酸欠。